

## 言語活動を充実させるために

### ●活用力をはぐくむための学習活動例の位置づけ

中央教育審議会の答申（H20.1.17）に示された活用力をはぐくむための学習活動例をもとに、各教科で活動例をつくり、授業設計の土台とした。そして、各単元（題材）でどのような言語活動を行うのか、シラバスで年間の見通しを持たせた。

#### 【活用力をはぐくむための学習活動の例】（社会科）

- ① 実生活での体験や調査活動などで感じたことを文章で表現する。
- ② 地図や統計などの資料を活用して調べたことを記述・報告する。
- ③ 社会的事象の意味・意義を自分なりに解釈し、説明する。
- ④ 書籍やインターネットなどを利用して得た情報を取捨選択し、分析したことを論述する。
- ⑤ 計画や構想を立てて調査活動を行い、その結果を整理し、考察し、まとめる。
- ⑥ 社会的事象についてペアやグループ、全体の中で考えを伝え合い、議論などを通して考えを深める。

### ●学習活動の場面を意識づけるカードの利用

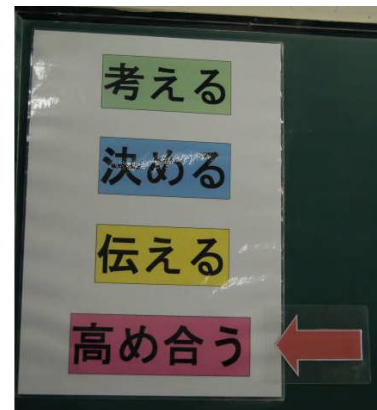
授業の展開でどのような言語活動を行うのか、授業の見通しを持たせている。場面を意識させることで、目的が明確化され、より効果的な活動となっている。

自分で考える場面・・・[考える]

自分で判断する場面・・・[決める]

自分の考えを友達に伝える場面・・・[伝える]

自分や友達のことを交換し、互いに深め合う場面・・・[高め合う]



### ●根拠を明確にした発表や表現活動

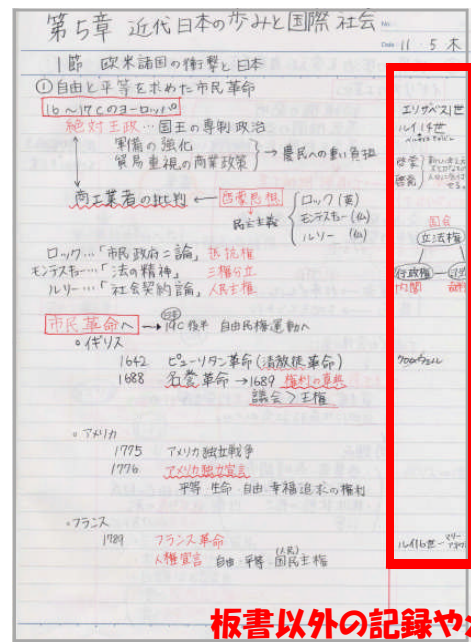
論理的な思考を養うために、授業に取り入れている。

### ●ノートの工夫

学習活動のあしあとが見えるノートづくりを心がけている。例えば、板書以外の記録やメモをとったり、文章化した振り返りを行ったり、字数制限などの条件付きで論述したりしている。

### ●学習形態の工夫

考えを交流し共有するために、ペアやグループなどの少人数による話し合い・教え合い、ディベート、討論会などを行っている。



板書以外の記録やメモ